

歴史の小径 散策ルート

距離 約2.7km
徒歩 約2時間30分コース

北
4



刈谷市 歴史の小径

れきしのこみち

城下町編



刈谷市歴史博物館
KARIYA city Museum of History

〒448-0838 刈谷市逢妻町4-25-1 TEL: 0566-63-6100

⑦市原縮荷神社

1 刈谷城跡 【かりやじょうあと】

天文2年(1533)に水野忠政が金ヶ小路に築城した。水野氏以後、幕末まで譜代大名が城主となる。明治4年(1871)の廃藩置県後、刈谷城は政府所有となり、城郭の建造物は取り払われた。

2 十朋亭 【じっぽうてい】

大正5年(1916)、刈谷土族会会長の大野介蔵により、土族会の会合場所として刈谷城戌亥櫓跡に建てられた。松本奎堂の親友、岡鹿門(旧仙台藩士)が易経から引用し「十朋亭」と命名した。



十朋亭

3 本丸跡 【ほんまるあと】

正保の城絵図によると、本丸はほぼ長方形で、周囲は土塁と石垣によって囲まれていた。天守はなく、江戸時代中期頃には北西隅と南東隅に2層の櫓があったが、後期にはなくなっている。

4 松本奎堂歌碑 【まつもとけいどうかひ】

松本奎堂が詠んだ辞世の句「君か為 命死にきと世の人に 語りつきてよ 峯の松風」が刻まれている。

5 大野定碑 【おおのさだめひ】

刈谷藩士として生まれ、江戸時代は家老、明治維新後は士族らによる生産義社の頭取に任命された。他にも、大参事や刈谷村戸長を務め、県会議員にも選出された。

6 伊勢湾台風追憶碑 【いせわんたいふうついおくひ】

伊勢湾台風は昭和34年(1959)9月26日に上陸し、刈谷市では死傷者119人、罹災者数は1万5,030人にも及んだといわれる。この碑は、昭和36年に刈谷市水防団及び消防団の功績を称え、再び惨状を繰り返さないために建立された。

7 市原稲荷神社 【いちばらいなりじんじゃ】

白雉4年(653)亀狭山の地に社殿を創立したのはじまりとされる。倉稲魂神・保食神・大山祇神を祀り、内外宮社など7の末社がある。

8 中島秋拳句碑 【なかしましゅうきょくひ】

中島秋拳(1773～1826)は、刈谷藩士・中島左守の長男として熊村に生まれた。諱は惟一、字は小徳。享和2年(1802)に隠居して曙庵と号し、名古屋の俳人・井上士朗に師事した。この句碑には、市原の渡し場のにぎやかな様子をうたった「夜わたしの 今に声あり 花さかり」の句が刻まれている。

9 市原常夜灯 【いちばらじょうやとう】

天保12年(1841)11月の大雨で破損し、翌月再建された。嘉永7年(1854)11月4日の安政東海地震では倒壊したので、市原の人々は修復のための踊り興行を藩に願ひ出た。

10 緒川口門跡 【おがわぐちもんあと】

侍屋敷と町家との境となっていた門。番所があり、藩士のみが出入することができた。緒川口門から町口門までの道の両側に、侍屋敷が立ち並んでいた。

11 松本奎堂碑 【まつもとけいどうひ】

松本奎堂(1832～63)は、刈谷藩で漢学などを教えていた松本印南の次男。文久2年(1862)に藤本鉄右・吉村虎太郎ら尊王派と親交をもち、翌年8月、奎堂は天誅組総裁として挙兵した。

12 町口門跡 【まちぐちもんあと】

町口門とは、刈谷城の内外を隔てる門のひとつ。城内で商売をする町人は、ここで町口門通り札を受けた。

13 札の辻跡 【ふだのつじあと】

本町・中町・寺横町・南横町が交わる辻。この辻の北西に高札があり、札の辻といわれた。

14 椎の木屋敷跡 【しいのきやしきあと】

徳川家康の生母、於大が岡崎城主松平広忠に離縁され刈谷に戻った際に暮らした屋敷跡。江戸時代、中央の窪地を囲んで椎の木が生い茂り、刈谷城外の霊地として一般の出入りは禁じられていたとされる。

15 下町常夜灯跡 【したまちじょうやとうあと】

熊村と刈谷町の境に建てられていた常夜灯の跡。常夜灯は現在、郷土資料館に移転されている。

16 文礼館跡 【ぶんれいかんあと】

文礼館の前身は、土井氏が西尾藩主であった時に藩士の子弟教育のために設立したものとされる。一時途絶えるが、慶応4年(1868)に再興された。

17 大手門跡 【おおてもんあと】

本丸に向けて進み冠門をくぐって右に折れたところに大手門(城郭の正門)があり、そこを通ると左に折れて本丸へとつづく道があった。

18 郷土資料館 【きょうどしりょうかん】

亀城尋常高等小学校の本館を保存・活用して、昭和55年(1980)に開館。民俗資料や刈谷の教育の歴史などを展示している。大中肇が設計し、平成11年(1999)2月に国の登録有形文化財になった。

19 豊田佐吉胸像 【とよださきちきょうぞう】

豊田佐吉は、慶応3年(1867)遠江国敷知郡山口村(現静岡県湖西市)に生まれ、昭和5年(1930)に亡くなるまで、織機の改良考案に没頭し、様々な発明を行った。大正12年(1923)刈谷町に豊田紡織株式会社の試験工場を、大正15年には株式会社豊田自動織機製作所を創立し、刈谷の工業化の基礎を築いた。